

『魁』の魂

100年繁栄都市うつのみや

【 宇都宮の生い立ち 】

私たちが住み暮らす宇都宮市は、北西に日光連山、北に那須連山を望み、東に鬼怒川の清流、南には広大な関東平野がひらけ、美しく豊かな自然に恵まれています。奥州街道と日光街道の分岐点であり、交通の要衝として栄えてきた立地条件は、独自の文化や価値観の変化を続け、地域に即した新しい「かたち」として創りだす市民性を育みました。交通網の拡充や内陸型工業団地の整備を積極的に推し進めることにより、北関東における商工業の中核拠点を創りあげ、また、「餃子」に代表される食文化などハード、ソフトの両面において様々な魅力を発信し続けております。

宇都宮JCは、1967年に「福祉社会の実現」を創始の精神に掲げ設立し、市民とともにまちを創ってきました。設立10周年の記念事業として始まった「ふるさと宮まつり」は2015年に第40回を数え、北関東における最大級のお祭りとして市民生活に深く根付いております。急激な都市化の波が市民相互の心のふれあいの場を次第に少なくしていった世相を反映し、「であいとふれあいの広場」というテーマのもと、時代が変わってもその価値は衰えることなく今日でも「ふるさと宮まつり」を開催する目的を明確に示した言葉として使用されております。これは宇都宮JCが市民と一体となって創りあげた市民協働のまちづくりの成果であり、この経験がアジア最高位のジャパンカップサイクルロードレースの開催を実現させ、ロードバイクの文化を日本に芽吹かせた大きな要因となります。

【 未来への希望 】

「日本創成会議」が発表した2040年に自治体の過半数が消滅するという予測は、自分たちが誇りに思うまちを子や孫の世代に受け継ぐことができない可能性を含んでおりますが、宇都宮市では長期的視野に立ち都市空間そのもののあり方の見直しを進める中で「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成を進めており、持続的な社会への礎を築いております。

宇都宮JCの使命は「未来を担う若き世代へのJC運動の波及」であり、JC運動が市民や市政に波及し市民協働のまちづくりが実現している我々の地域において行うべきことは、JC運動が市民にとって生活の一部となり、日常生活を行うこと自体がJC運動につながる礎を創りあげることです。『魁』の魂が宿る宇都宮市民にとって全国大会を契機となり、運動が市民にとって生活の一部として受け入れられ、市民一人ひとりがJAYCEとなる取り組みを加速させていきます。

我々は全国大会を通じて宇都宮に宿る『魁』の魂を全国のメンバーに伝え、自分たちの地域に対する誇りや精神性を見つめ直す契機とします。世界でたった一つの我がまちを、我々がリーダーとして先頭に立ち、全力で運動を展開していくことを通じて、市民へのJC運動の波及を図り、全国各地において100年先も繁栄し続ける地域社会の礎を築きます。

43 【補足】

44 『魁』の魂：古くより宇都宮という地域を発展させてきた市民性。自立自活の精神に基づき、常に次代を見据  
45 え地域の発展のために新しい文化や価値を地域に即した形でもって受け入れてきた柔軟性を指す。明治期におけ  
46 る鉄道や軍隊の誘致。戦後復興期における土地区画整備事業の実施。高度経済成長期における工業団地の誘致、  
47 清原地区におけるテクノポリス計画の策定。「餃子」ブームにおけるB級グルメの走りなど。